

令和４年度における糸満市の温室効果ガス排出状況について

令和４年度の糸満市における温室効果ガス（CO₂）の年間排出量は前年度より約４．４％（４７６．２ｔ）増加し、１０，８３１．７ｔでした。

令和４年度の温室効果ガスの総排出量は １０，８３１．７ｔ－CO₂

詳細は以下のとおりです。

令和４年度 糸満市温室効果ガス排出量（排出要因別）

	排出要因		排出量 (t-CO ₂)	割合 (%)
施設	CO ₂	電力	9,206.4	85.0%
		ガソリン(公用車以外)	1.5	0.0%
		灯油	4.8	0.0%
		軽油(公用車以外)	2.4	0.0%
		A重油	269.7	2.5%
		液化石油ガス(LPG)(公用車以外)	783.1	7.2%
		都市ガス	0.0	0.0%
	CH ₄		132.2	1.2%
	N ₂ O		247.1	2.3%
	小計		10,647.1	98.3%
車両	CO ₂	ガソリン(公用車)	131.8	1.2%
		軽油(公用車)	46.9	0.4%
	CH ₄		0.2	0.0%
	N ₂ O		4.9	0.0%
	HFC		0.8	0.0%
	小計		184.6	1.7%
施設 + 車両	CO ₂ 合計		10,446.5	96.4%
	CH ₄ 合計		132.4	1.2%
	N ₂ O合計		252.0	2.3%
	HFC合計		0.8	0.0%
合計			10,831.7	100.0%

※掲載値は、小数点未満を概数処理(四捨五入)しているため、合計や割合が一致しない場合があります。

・温室効果ガス種別で見ると、温室効果ガス排出量の大部分はCO₂（１０，４４６．５ｔ-CO₂）であり、全体の９６．４％を占めていました。CO₂以外では、CH₄（１３２．４ｔ-CO₂）、N₂O（２５２．０ｔ-CO₂）、HFC

(0.8 t-CO₂) を合わせて 3.5 %でした。

施設別及び車両別で見ると、施設からの排出量は 10,647.1 t-CO₂ であり、全体の 98.3 %でした。車両からの排出量は 178.6 t-CO₂ で、全体の 1.7 %でした。

エネルギー種別にみると、電力の使用による排出量が9,206.4 t-CO₂と最も多く、全体の85.0 %を占めていました。以下、LPG（公用車以外）、A 重油、ガソリン（公用車）、軽油（公用車）の順でした。

令和4年度 糸満市温室効果ガス排出量（組織別）

組織			CO ₂ (t)	CH ₄ (kg)	CO ₂ 換算(t)	N ₂ O (kg)	CO ₂ 換算(t)	HFC(kg)	CO2換算(t)	CO ₂ 換算総計(t)	構成比
市長部局	庁舎	施設	903.7	0.0	0.0	0.0	0.0			903.7	8.3%
		車両	84.2	4.8	0.1	9.8	2.9	0.3	0.4	87.7	0.8%
		合計	987.9	4.8	0.1	9.8	2.9	0.3	0.4	991.3	9.2%
	市長部局出先	施設	191.3	0.0	0.0	0.0	0.0			191.3	1.8%
		車両	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
		合計	191.3	0.0	0.0	19.6	0.0	0.0	0.0	191.3	1.8%
	保育所・児童館	施設	286.0	243.2	6.1	7.9	2.4			294.5	2.7%
		車両	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0%
		合計	286.3	243.2	6.1	8.0	2.4	0.0	0.0	294.8	2.7%
	消防本部	施設	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0			90.9	0.8%
		車両	51.1	3.0	0.1	3.1	0.9	0.0	0.0	52.1	0.5%
		合計	142.0	3.0	0.1	3.1	0.9	0.0	0.0	143.0	1.3%
	観光施設	施設	722.4	0.0	0.0	0.0	0.0			722.4	6.7%
		車両	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0%
		合計	722.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	722.8	6.7%
	地下ダム	施設	1,254.4	0.0	0.0	0.0	0.0			1,254.4	11.6%
		車両	1.7	0.2	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	1.8	0.0%
		合計	1,256.1	0.2	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	1,256.2	11.6%
	運動公園	施設	642.1	0.0	0.0	0.0	0.0			642.1	5.9%
		車両	17.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.8	0.2%
		合計	659.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	659.9	6.1%
	各種公園	施設	99.8	0.0	0.0	0.0	0.0			99.8	0.9%
		車両									0.0%
		合計	99.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	99.8	0.9%
	市長部局合計			4,345.9	251.2	6.3	40.8	6.3	0.3	0.4	4,359.0
教育委員会	小中学校	施設	2,491.5	670.9	16.8	26.2	7.8			2,516.0	23.2%
		車両	13.2	0.9	0.0	1.7	0.5	0.2	0.3	14.1	0.1%
		合計	2,504.7	671.8	16.8	27.9	8.3	0.2	0.3	2,530.1	23.4%
	教育委員会出先	施設	589.8	0.0	0.0	0.0	0.0			589.8	5.4%
		車両	5.2	0.3	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	5.4	0.0%
		合計	595.0	0.3	0.0	0.5	0.2	0.0	0.1	595.3	5.5%
	教育委員会合計		3,099.7	672.1	16.8	28.4	8.5	0.3	0.4	3,125.4	28.9%
水道局	上下水道施設	施設	2,996.1	4,373.3	109.3	795.2	237.0			3,342.4	30.9%
		車両	4.9	0.5	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	5.1	0.0%
		合計	3,000.9	4,373.7	109.3	796.0	237.2	0.0	0.0	3,347.5	30.9%
合 計	施設	10,267.8	5,287.4	132.2	829.3	247.1			10,647.1	98.3%	
	車両	178.7	9.7	0.2	16.3	4.9	0.5	0.8	184.6	1.7%	
	全体	10,446.6	5,297.0	132.4	845.6	252.0	0.5	0.8	10,831.7	100.0%	

※掲載値は、小数点未満を概数処理(四捨五入)しているため、合計や割合が一致しない場合があります。

組織別に見ると、市長部局が 4,359.0 t-CO₂（全体の 40.2 %）、教育委員会が 3,125.4t-CO₂（全体の 28.9 %）、水道局が 3,347.5 t-CO₂（全体の 30.9 %）でした。

各組織の排出量の内訳をみると、市長部局では地下ダムが 1,256.2 t-CO₂、庁舎が 991.3 t-CO₂、観光施設の 722.8 t-CO₂、が上位となりました。教育委員会では小中学校の 2,530.1 t-CO₂が教育委員会全体の 81.0 %を占めていました。